

あすてらすネットワーク

情報Market^{まーけっと}

第4号

2005.7月

- MENU

あすてらすフェスティバル2005報告・・・P2～4

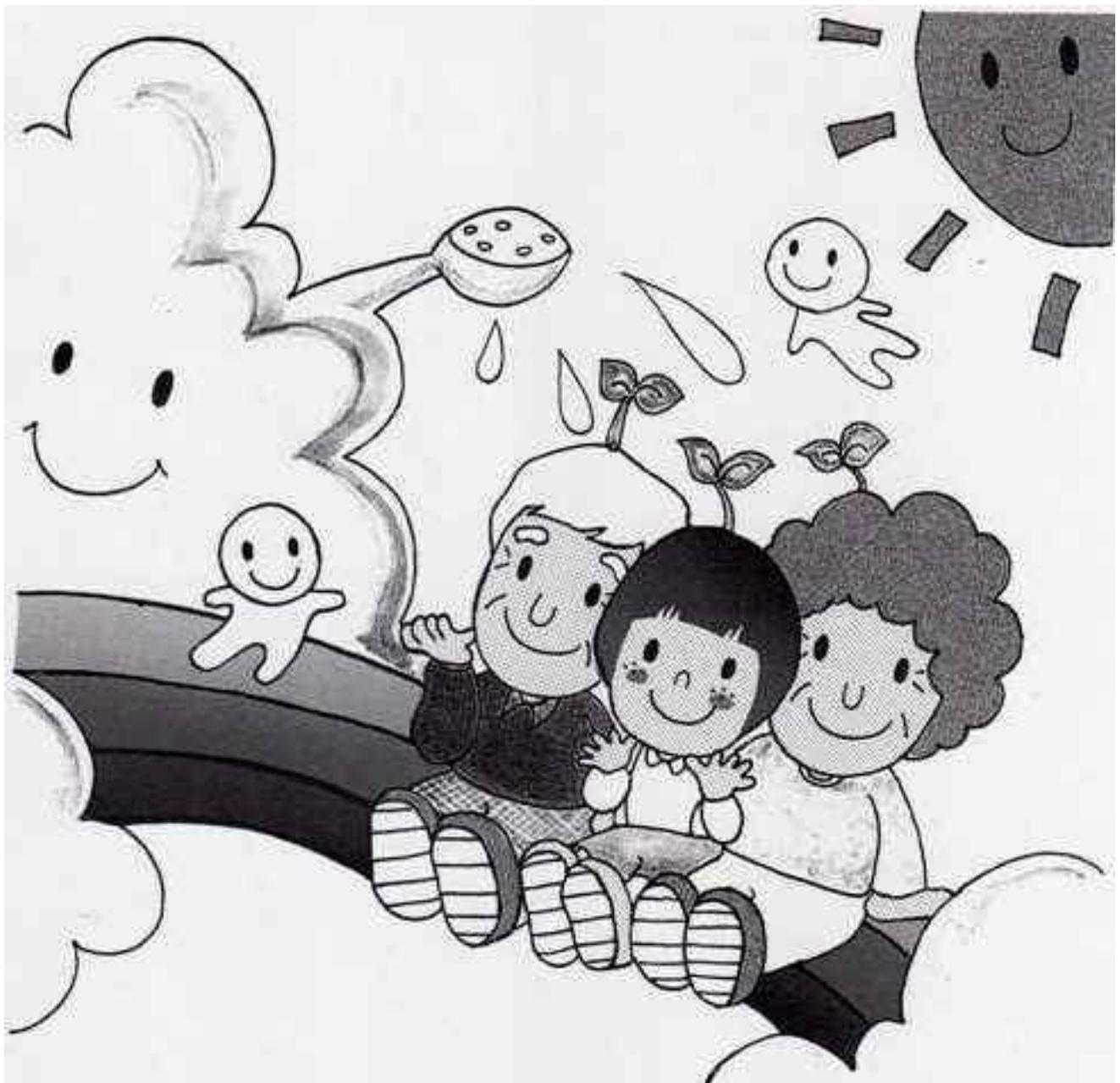
第1回男女共同参画セミナーレポート・・・P5

ネットワーク会員リレートーク・・・P6

情報ライブラリー ブック&ビデオ

テーマ「少子高齢化社会と福祉」・・・P7

あすてらす情報Market編集委員の募集・・・P8



あすてらすフェスティバル2005



* オープニングイベント* 五十猛保育園マーチングバンド



和太鼓 縁

自主企画イベントでは66の個人や団体が
様々な活動の成果を発表。

発表・交流・発信を楽しみにしてきた
皆さんが一堂に集う「あすてらすフェスティバル」
新たな取り組みとして
「あすてらすサポートクラブ」による自主運営に。
約1,800名来場され
オープニングからクロージングイベントまで
大変賑やかな2日間でした。



ぐるぐるアート世話人の会

曼荼羅絵をヒントに「ありがとう」の文字
を添えて各々の思いを書き付ける。ぐるぐ
ると自分の位置も回りながら書くうちに内
面の变化、相乗効果が見られるそうです。



手しごとや 楽

ひとり一人の手しごとが極まった感のある陶器・古布の
作品たち、展示にも工夫が凝らされて…。素材を見ると
次々とアイデアが沸くというのも羨ましい。



農業大学校



母恵夢



佐田町婦人会



手づくりグループ 風



田んぼの学校

おじさんたちが作ってくれる本格的な竹とんぼや大きな水鉄砲に子どもたちは夢中でした。



日原町連合婦人会



フローラル フェアリー

ポーセラーツの作品は手仕事とは思えないほどきれいな仕上がりで、その一角が華やかに目立っていました。



クロージングイベント

J A 石見銀山女性部長久支部ふれあい班

記念講演

「この指とまれ 探検 発見 ほつけん」

講師 山崎 洋子 (やまさき ようこ) さん

(NPO 法人田舎のヒロインわくわくネットワーク理事長)

「命は農業に起きていること、家畜の目から見ると、日本中を歩いて、この土地に決めたという夫に似た景色と暮らしの場面ではないだろうか。」

「生き急いでどうするのか、人生は味わって生きるものだろうか」と呼びかけられて入った農業のある暮らし。はじめの数年は夢のようにいかなかったというが、小さな新聞記事が一粒の種となり、「ヨーロッパへ行って、農家の女性の暮らしを見よう(ファームステイ)」が実現したのは十八年前。計画、言葉の学習、お金の準備、周囲の説得を超えて踏んだヨーロッパでの体験で、仲間たちは遅く

なった。帰国してからの周りの見方も変わり、女性たちが発言権を持った喜びは本となり、全国ネットの仲間へと広がった。

もうひとつ、酪農の仲間たちを応援し、日本の消費活動に刺激を与えたのが雪印事件。全国の仲間を求めて株主総会に参加し、原因究明にも加わった。何もないといいながら、何が出来るか、発見した「ほつけん」と暮らしてきた証は、山崎さんの表情豊かな姿に表れている。

(白くま)



「あすてらすフェスティバル2005」を主催した「あすてらすサポートクラブ」の福島恵美子代表に今回のフェスティバルを振り返っての感想をうかがいました。



Q. 「あすてらすサポートクラブ」さんは今回、しまね女性ファンドの助成を受け、主催として活躍されました。準備からフェスティバル当日を振り返っていかがでしたか。

A. 資金面で不安があったため、公益信託しまね女性ファンドへ応募しました。かなり不安がありました。採択されてホッとしました。

あすてらすの組織体制が今年急変し、「あすてらすフェスティバル」は助成を受けたあすてらすサポートクラブのメンバーにかかりましたが、サポートクラブの主要スタッフが減ったり、あすてらす職員の皆様との連携がうまくいかなかったり、果たしてうまくいくのか不安でした。しかし、話し合う事で無事当日を迎え、大盛會に終わることができました。来年につなげられたとホッとしています。



Q. 特に印象深かったことはなんですか。

A. 昨年より出展数は減りましたが、内容は充実していました。回を重ねることで顔なじみが増え、自然に笑顔がこぼれ、声かけ等がスムーズにでき、良いコミュニケーションがとれたと思います。

今回、あすてらすと地元の関係はまだまだ親

近感に欠けていると思いました。行政関係がようやく「あすてらすフェスティバル」に関心が出てきたところ。住民にはまだまだ。「あすてらす」を知ってもらえるよう、あすてらすの職員さんは地域の行事にも出かけていただき、顔見知りになり、更に良い関係を築いていけば定着していくと思います。

また、施設内はバリアフリーになっていない場所が多いので、時間をかけてもすべての人が参加、来館できるようなフェスティバルにしてほしいです。

サポーターの皆さんは無償ボランティアにも関わらず不満も言わずにサポートしてくださったことに深く感謝しています。今回はサポーターに若い方も加わっていただけました。これからは若い世代の方々を育成することも大事だと思います。



Q. 講演で、また自主企画で、そしてご来場いただきフェスティバルを盛り上げてくださった皆さんへひとことお願いします。

A. 県内各地から大勢の皆様方が2日間お出かけくださって、全館が心地よいにぎわいで活気に満ちていました。出会う人の表情はみな柔らかく、お互いに会話も気軽にでき、とても優しい雰囲気になりました。

開催までの間、私に多くの方々がねぎらいの言葉をかけてくださいました。今年も多くの方々の心の豊かさを感じました。大勢の力で今回も盛大に終わることが出来ました。厚くお礼申し上げます。来年も再び素晴らしい出会いを。

インタビュー：neko

第1回 男女共同参画セミナー

日時 平成17年6月18日(土)
13:30~15:30
場所 県立男女共同参画センターあすてらす
ホール

「あすてらすフェスティバル2005」と
同時開催した「男女共同参画セミナー」は
ホールが満席となる大盛況でした。



基調講演

「男(ひと)と女(ひと)良きパートナーでいるために」
講師 山根基世さん(NHKアナウンス室長)



男女共同参画寸劇 「三原家の場合」

出演 劇団 青い鳥(出雲市湖陵町)

広く県民の皆さんに男女共同参画社会に対する理解を深めていただくために「男女共同参画セミナー」を開催しました。今年度第1回目は男女共同参画をテーマとした寸劇と基調講演の2部構成で行いました。

まず、寸劇では「劇団 青い鳥」のおふたりが、どこの家庭にでもありそうな場面での男女の役割分担や意識の違いなどについて、二世代の夫婦のやり取りで演じられました。お二人の息の合った出雲弁でのやり取りにより、明るく楽しい雰囲気演出され、堅苦しく思われがちな男女共同参画というテーマを来場者のみなさんに身近なものと感じていただくことができました。

続いての基調講演では、6月のNHKの管理職の人事異動により、女性初の理事待遇であるアナウンス室長に就任されたばかりの山根基世さんが、30余年に渡るアナウンサーとしての経験を通して、自分の言葉を持つことの大切さや、誰もが持っている無意識の部分での感情について話されました。男女共同参画社会を進める中での人と人との関係を育てるためには何が必要かについて考えるきっかけとなりました。また、ゆったりとしたお話しぶりの中にも、男性優位の職場環境の中で現在の地位を築かれるまでのご苦労やご努力が感じられ、リーダーとなるための心構えについても見直す機会となりました。

(財)しまね女性センター 福間祐子

プロフィール

< 劇団 青い鳥 >

出雲市湖陵町在住の森山和子さん、三原美智留さんによる名コンビ。お二人は地域で子どもや高齢者を対象としたボランティア活動を行う一方、島根県男女共同参画サポーター(旧湖陵町)として、平成15年から寸劇を通じた地域への話題提供と男女共同参画の推進を行っている。

< 山根基世さん >

1948年、山口県防府市に生まれる。早稲田大学文学部英文学科卒業。1971年、NHKに入局。NHK大阪放送局勤務をへて、1974年よりNHKアナウンス室(東京)勤務。2000年、第26回放送文化基金賞受賞。「関東甲信越・小さな旅」「はんさむウーマン」「土曜・美の朝」「ラジオ深夜便」などの番組をへて、現在は「新日曜美術館」を担当している。著書に、『女・今を一心に生きる』(三笠書房)『ことばで「私」を育てる』(講談社)など

ネットワーク会員リレートーク

「自分を振り返り・・・」

ひらたネットステーション事務局 出雲市

十年前、私はいわゆる「鼻持ちならない女」だった。

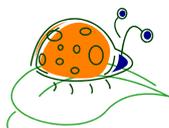
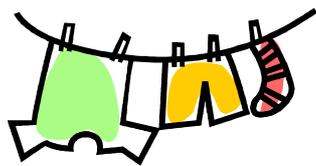
能力重視で女性であっても昇進の道が開かれた会社で働き、支店勤務でありながら本社所属という社内でも特別な立場にあった私は、自分を客観的に見る目を持たない傲慢な女だった。

もし、そのままの私であったのなら、今の私はいなかっただろう。

奢り昂ぶった私を変えたのは「今の君は出来る女が陥りがちな危険な状態にあるよ。」というある上司の言葉だった。最初は意味がわからず反発した私だったが、自分を冷静に見たときに、周囲を見下し、他人の良いところを認めて尊ぶことを知らない自分の醜さに愕然とすると同時に猛反省した。

女性が社会に出て、周囲から評価を受けることで感じる喜びは大きい。しかし、そこで大事なことは謙虚に自分を振り返り、反省を重ねつつ生きることだと今の私は思う。

その会社で身につけた様々な考え方や能力は今でも私を支えてくれている。身につけたものをさらに磨きながら、傲慢にならず、優しく可愛い女性でありたいといつも思っている。



「不器用な夫?!」

気のなが~い妻 益田市

妻が洗濯機を回したが干さず出勤した後、夫が気づき外に干してくれた。妻はそのことを知らず夕方からの会議を済ませて夜9時過ぎに帰宅。「干してくれたんだ」と取り込んでいる時、夫も帰宅。

「せっかく干したのに今頃まで外においたら湿るじゃないか」と苛立ちの声。「私も今帰ったところなんよ。干してくれたのね、ありがとう」の妻の声に照れくさいのか知らん顔。

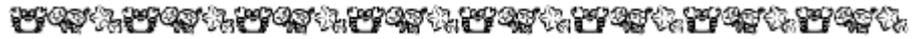
数日後の日曜日、夫はせっせと洗濯干しをしていた。「ありがとう!」と外に出てみると私が大切にしているTシャツの襟首をハンガーにかけるため思い切り引っ張ったらしく「だら~ん」と伸びていた。その後、ニットのセーターをハンガーにかけたり、ウールとポリエステルや色物と白い物の区別をせず、洗剤や洗濯方法も変えないため着られなくなった衣服が続出、その都度がっかりしたり、しまったと思ったりしている。

今まで家事に見向きもしなかった夫が「やってみよう」と思ってくれただけでも嬉しい事。相手のやる気を壊さないで洗濯物が「無事な状態」にするにはと日々考え工夫をしている気のなが~い妻です。

「男女共同参画って何?」「男性も女性も同じ人間ってことじゃない?」「当たり前じゃ」「でも、あなたの言っていることと行動とが何となく合っていないと感じるのは私だけ?」にならないよう頑張ろうね、あなた!

少子高齢化社会と福祉

あすのこ情報ライブラリー



高齢化社会への意識改革 老年学入門



関口礼子編
勁草書房

日本の高齢化は、世界に類を見ないほど急速で、一世代のうちに意識の改革、制度の作り変えなどが行われなければ間に合わず、家庭内外での世代間のふれあいを意識敵に努力する必要がある。現実には、若者には体験を通して高齢者についての学習が進められ、高齢者にも学習し自立する機会が広がられている。米国で展開されている教育老年学の日本版として、新たに興味深い視点が面白い。

(白くま)

晩年の教科書



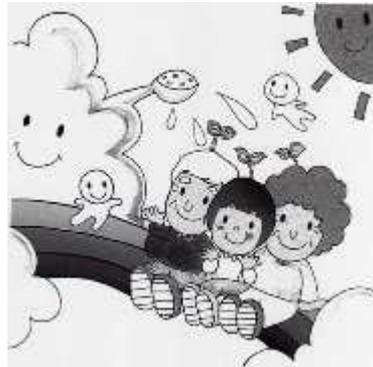
虹企画編
河出書房新社

いずれはやってくる老後(?)。さてどう向き合うか。余暇をどう過ごすか、年金、遺言、相続、お墓に、葬儀は?等々、一応は知っておく方が良い事ですよ。詳しくは別にして、さりげなく夫の目に触れさせるにも適切な本。

(涼風)

BOOK レビュー

ひとりっ子時代の子育て



杉山由美子著
日本放送出版協会

少子化の現在、ひとりっ子はポピュラーな存在。そこにあえて焦点をあて、現実を描き出す。しかし、子供が何人であれ、子育てにつきまとう「親の後ろめたさ」「少し視点を変えてみる」・「社会のお世話になる」。別の方向性が、あなたの心を軽くし、子育てを楽しむきっかけになるかも。(ハッシー)

いつのまにか私も「婆あ」 居なあって老いを楽しむ



門野晴子著
講談社

NHKドラマ「天うらら」の原案となった作品の著者で、早くトシをとりたかったという門野さんが還暦を迎え、自分の老いについて、国際結婚をした娘のこと、実母の介護のことなどを交えてテンポよく、小気味いい語り口でつづる。様々な出来事に直面した時の正直な気持ちがそのまま伝わる。

(neko)

誰が老いを看取るか 女手だけでは支えきれない



沖藤典子著
ミ礼ガ書房

本当に明るく満たされた晩年に必要なのは、誰も犠牲にしない介護である。そこには、生き方の中から「老い」と「死」を見つめる事、家族のありよう、夫婦のありようを問う事にも及ぶ。本書の中では、老いの先輩から学ぶことも含めて、老人ホームや施設での思いもよく分かる。「中年期の生き方が、二十一世紀の老いを決める」というフレーズにドキリの一冊。

(白くま)



情報Market編集委員募集

編集委員って？



1～2ヶ月に1回あすてらすに集まって、記事の編集やブック&ビデオコーナーの書評の作成などを行っています。少人数でお茶を飲みながら、ワイワイ楽しく作っています。

現在、情報Marketを作るメンバーを募集しています。ミニコミに興味のある方、新たな出会い、友達を作りたい方、男女共同参画に興味がある方・・・大歓迎です。パソコンが使えなくても色々な活動をしていますので、得意な分野で参加してください。詳しくは下記までご連絡ください。ご連絡お待ちしております！

こんなことしてます

- ・本を読んで書評を書く
- ・インタビューをする
- ・レポートを書く
- ・イラストを描く
- ・イベントの写真を撮る
- ・パソコン(ワード)で原稿を作成



*その他さまざまな活動をしています。

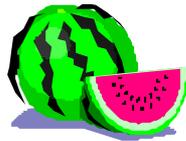


問い合わせ先 **財団法人しまね女性センター 事業課** TEL 0854-84-5514



「あすてらすネットワーク情報Market」へのご意見・情報をお待ちしています

住所・氏名(グループ名)・電話番号を明記の上、下記あてに郵送、FAX、メールにてお送りください。匿名希望の方はペンネームをご記入ください。原稿は400字以内、イラスト、漫画は葉書大以内でお願いします。掲載させていただいた方には500円分の図書カードをさしあげます。



(誤) (正)

市町村名	人数	人数
浜田市	0	12
出雲市	12	9
益田市	9	12
大田市	12	44
安来市	44	7
江津市	7	9
平田市	0	11
雲南市	9	11
鹿島町	11	1
島根町	11	1

第3号に掲載しました「あすてらすネットワーク会員数(平成十六年度)」に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

お詫びと訂正

INFORMATION

開館時間

9時～21時(受付は9時～19時まで)
 ・情報ライブラリー 19時まで
 ・ニューメディアスペース 19時まで(土曜・日曜は17時まで)

休館日

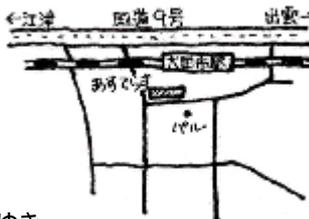
毎週月曜日・国民の祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
 ただし、宿泊施設については、日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日～1月3日)

島根県立男女共同参画センター

あすてらす

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ236-4
 TEL 0854-84-5500(代) FAX 0854-84-5589
 URL <http://www.asuterasu.pref.shimane.jp/>
 E-MAIL asu-01@asuterasu.pref.shimane.jp

発行/財団法人しまね女性センター
 編集/情報Market編集委員 表紙イラスト/おのみゆき



あるときは職人、あるときは家族のように編集を楽しんできた情報マーケットの仲間は、明日の「あすてらす」を見つめています。今回のフェスティバルのように、心と力を寄せ合う場がいつでもどこでも実現するといいいですね。

(白くま)